

# 「言葉を形に」

花き装飾コース

## 1. はじめに

趣味も特技もない私が高校2年生の頃、フラワー装飾技能士3級の練習で、花束を作れるようになったという達成感と嬉しさで、花に興味を持ちはじめた。高校の課題研究では、自分たちで作ったフラワーアレンジメントを地域の方にお届けすることがよくあり、「かわいい」「ありがとう」と直接言っていただけることが多く、「自分の作る花束でたくさんの人を喜ばせたい」「たくさん笑顔を作るフローリストになりたい」と思うようになり花屋になるという夢ができた。

たくさん笑顔を作るフローリストになるには、何が足りないのか。普段の授業で自分の知識・技術不足を感じることも多くある。それだけでなく自分には想像力が足りないのではないかと考えた。自分のイメージを言葉で伝えることが苦手で、相手の言葉からも相手にはどんな景色が見えているのか、何をイメージして私に伝えようとしているのか、読み解いていくことができない。このままでは、花束を制作しても自己満足で終わってしまい相手に喜んでもらえず、たくさん笑顔を作るフローリストにはなれないと思った。

言葉からイメージすることが苦手な私にとって、作詞者の思いがたくさん詰まった歌であれば想像がしやすいのではないかと思い、想像力を身につけながら技術も向上させることができる「歌」を花束で表現するという事を卒業制作で取り組み「言葉を形に」と題して作品をまとめた。

## 2. 制作作品

(1) 「図書室の君へ」



(2) 「言霊砲」



### (3)「君の名は希望」



### 3. まとめ

言葉を花束にするというのは難しく、歌詞を自分なりの考えに読み解いていくことに時間がかかってしまい、イメージを固めることに苦戦した。なかなかイメージも固まらないことで、市場に行ってもどの花が使いたいのか自分でも分からず困惑してしまった。このことから、イメージをしっかり持つておくことの大切さを学ぶことができた。

制作では、最初は全部同じぐらいの高さであれば全部の花がきれいに見えると思っていたが、制作回数を重ねることで、徐々に埋めるべき花と飛ばすべき花がわかるようになった。色合いについても、自分が見せたい色だけを入れるのではなく、濃い色や薄い色を入れることで見せたい色をより目立たせることができると学んだ。今後、卒業制作で使用した以外の花の見せ方も追求していく必要もあると感じることができた。

制作した花束は仕入れ価格で 3,000 円から 5,000 円といった価格帯となった。同じような価格帯でもボリュームがまばらになってしまったため、今後は金額に応じた花束が制作できるよう、もっと花束を制作して感覚をつかんでいかなければならないと感じた。

卒業制作を通して、何気なく聞いていた曲でもどんな情景が歌われているのか想像しながら聞くようになり、想像力を膨らませることが少しはできるようになったのではないかと思う。今後も本を読んだりして想像力を培い、たくさんの笑顔を作るフローリストになりたい。